



中国・延吉教会訪問交流の感想

福山集会所 坪井まゆみ

今回2回目となる延吉教会へ行ってきました。
昨年参加した3名に加え今年は新しい方4名が参加しました。

私が2回行って思うことはあなたにもぜひ行っていただきたいということです。
延吉教会女性たちのあのパワーを感じてほしいのです。
そして体験したことの中からそれぞれが気付くことがたくさんあり、またそれを必ず活かしていくことができると思うからです。

しかし、7日分の時間と費用をかけて誰もが行けるわけではないと思うので(私もよく行けた、神様が行かしてくださったと思うのですが)まずは私の稚拙な文面の中からでもこの伝道地を知っていただきたいと思うのです。

中国のSDA信徒数は39万人ともいわれていますが、ここの人たちもすごくお元気です。
北朝鮮とも接する国境近くに位置する延吉市は朝鮮族自治州で朝鮮語と中国語が普通に話されています。

李牧師の依頼で昨年訪問したことがきっかけとなり延吉にも女性会ができました。
昨年はフレンドシップキルトで良い交流がなされ、食堂にはあの記念のキルトが額に入れて掲げられていました。

今年は、アロママッサージ、聖書カバー、ちいさな財布になるポーチ作り、編み物の襟巻などを講習しましたが、すごく熱心で日が暮れるまでワイワイしてにぎわいました。
彼女たちはこれらを自分の知識だけではなくおそらく私たちが考える以上の仲間作りと伝道に用いるのではないかと想像しました。50人くらいの方々が学ばれました。

李牧師はAWRの日本語放送を中国で20年くらい前に聞かれたのです。以後、日本で牧師の資格を取るために来日。

延吉に帰られて9年。当時数十人の信徒が今では教会で活動できる信徒が1000人になっています。

また延吉市の郊外にも支教会が10箇所出来ています。

今年は礼拝堂の裏庭に洗車場と三育食品のお店をオープン。またゲストルームもリフォームしたり、教会の外壁も新しくなっていました。

中国は目覚ましく伝道が伸展している地域でありこの地の人のたくましさや熱心さは目を見張るものがあります。

自分自身にかけているこのことをまねしていくようにとこの地を訪問させていただいたように思っています。

初めて延吉教会との交流会に参加しました

神戸有野台教会 中山 良子

女性たちの元気に圧倒され、文化の違いに驚き、エネルギーや食料等の資源の豊富さにうらやましさを感じました。

安息日午後からの行事(アロママッサージ講習会)に沢山の方が参加して下さり、喜んで頂けたことを私達も幸せに感じています。

塩味のきいた隣人となるために、外に出て行く大切さもわかりました。

何事もなく無事に帰れました事、私達を愛してくださっている神様のお恵みに感謝です。

日中関係の複雑な時期に気持ちよく出してくれた家族にも“ありがとう”と言いたいです。

第2回 延吉の教会訪問

高知教会 吉村 由美

今回、多くの刺激をいただいた、中国の教会訪問に参加出来、神様の導きに感謝しています。気づいたことを報告させていただきます。

1、 自立している教会

牧師に頼らず、自分たちで計画し、実行されていました。

周辺にある SDA の教会との連携もよく、その教会の牧師夫人が積極的に参加し、女性会も女性信徒のみならず、牧師夫人と協力し、組織的に動こうとされていました。

昨年の西日本女性会の訪問を機に「女性会」を組織され、李先生の指導のもと、明るく、活発な教会へと成長されていました。

ニュースタート伝道も行われていて、その食事作りも、教会員ですべてなされ、よく訓練された教会員が、多くおられることに驚きました。

2、 祈り合う教会

早天祈祷会が、教会で、また、個々において行われていました。

朝、礼拝堂が開いていたので覗くと、三育食品を販売されている文さんと教会の管理人の金さんがひざまづき、まさに、お祈りしようとしておられるところでした。私も、仲間に入れていただき、一緒にお祈りしました。もちろん、言葉はお互いわかりませんが、気持ちは通じて、本当に幸せな時間でした。

3、 讚美の教会

讚美がとても、力強く、感動しました。讚美歌礼拝は、若い方が、元気よくリードされていました。

聖歌隊も、若いグループと熟年グループがあるとのこと。

今回の礼拝は、熟年グループが担当されていました。かなりの熟年の方もおられましたが、力強い讚美に感動いたしました。少人数での特別讚美歌では、それぞれが「マイク」を持ち、高らかに讚美し、「マイク」を避ける日本人は、圧倒されました。

4、 積極的な教会

何事にも、積極的で、伝道のためなら何でもする！！という姿勢を見習いたいと思いました。

今回の私たちが提供した「アロマオイルマッサージ」「ポーチ作り」「聖書カバー作り」「ネックウォーマー」のすべてにおいて、自分たちの教会の伝道のために使おうと、やり方を一生懸命覚えようとされていました。その貪欲な姿勢に、刺激されました。

5、 アイデアマンの李 先生のコーディネイトの素晴らしさ

牧師としての立場から、伝道のために、どうしたらいいかを常に考え、このことは、教会に必要！！と思われたことは、どんどん、実行に移される、その姿勢に感動しました。教団総会で、展示していた私たちの「フレンドシップキルト」に、目を止めてくださり、「これを、教えに延吉まで来てくださいませんか？」とお声をかけてくださったのも、先生のそのようなお気持ちがあればこそ、実現したのですね。感謝いたします！！高さんといわれる婦人伝道師を育て、礼拝説教、家庭集会、訪問、教会事務を任せておられました。

次の候補も、先生の頭の中にはあるようでした。

とにかく、元気で、明るい！！大学の先生もされているので、学生とサッカーをして、48歳とは思えません。

今回、中国との問題があり、心配された訪中ではありましたが、中国の東北の延吉に、神様のみ手が伸ばされ、同じSDA信仰を持つ教会があることを知り、元気で、明るく、伝道意欲に燃えた多くの方々とお会いすることができたこと、本当に感謝です。

伝道が停滞する日本にあって、どうしたらいいか、これからの課題と、私の信仰姿勢を考えさせられました。

行けないと思っていた延吉訪問の道を開き、多くの気づきを与えてくださった神様にお応えするためには、どうしたらいいか。

小さな一歩ですが、まずは、私が、変わること！！このことから、始めていきたいと思えます。

どのように変わるかということも課題ですが、とにかく、信仰生活を楽しみ、大好きなSDA信仰を満喫したいと思えます。

日本のすべてのSDA教会を訪問し、同朋に、お会いしたい！！今、そんな気持ちです。



下記でたくさんの写真をご覧くださいませ。

nishijo.blogspot.jp

中国旅行ほんとに楽しかったです

広島三育学院教会 佐藤 春枝

こんなに遠くに同胞の方々がいらして、
初めてお会いするのにハグができるなんてなんと素晴らしい事でしょう。

みんな、一生懸命生きているんだと実感しました。
財布作り(小さなポーチ)では、「これ、ほんとに君が作ったの?」とご主人に言われたとか。

針を持つのは久しぶりだったが仕上げられて嬉しい、などみなさん満足気で、来てよかったですと思いました。

文化の違いこそあれ、食事もおいしく、観光も無事にできて、全てが守られ感謝でいっぱい
の訪問でした。

今日、高校生のクラスで看護師の働きについて少し話す時間がありました。

ゆかりさんもいたので坪井さんと中国でカットしたこと言ったら、

わりとうけていました。わたしの髪型をみてやっぱり、、、みたいな。

(付け加え 坪井まゆみ)

日本に帰国の日に朝風呂に行き、その帰りに李牧師が盛んに教会員の人のお店でカットする
のを進めるので

佐藤春枝さんとそのお店お風呂屋さんの隣なので入ってみました。

言葉は全く通じなかったけどこのくらい切ってねという感じのジェスチャーで髪を切っ
てもらいました。

料金 10 円で、え〜っ!びっくりでした。日本のお金で 130 円くらい。

お風呂屋さんは 12 元(150~160 円くらい) です。

2 回目の延吉教会訪問

神戸有野台教会 石塚 真実

今回の参加者 7 名のうち 3 名は 2 回目ということで、少々余裕をもって準備しておりましたが、日に日に増す竹島、尖閣のニュースに私たち、家族、周囲の人たちの心配と不安の中、祈りながらの中国延吉教会への訪問となりました。

韓国経由でしたので、半日観光する時間がもてました。「教会関係の施設を見たい」という希望があり急遽 NSD の鈴木明理先生の奥様が快く引き受けてくださり、私たちを出版社（時兆社）と衛生病院のある三育施設に案内してくださいました。時兆社その向いの大きな教会、衛生病院区域にある語学学院（中国、日本、英語）メモリアルホール等どれをとっても大きく立派な施設でした。一般の方々のニーズに答えて無駄なく機能されている事に圧倒させられました。語学学院は 15 台のスクールバスを持ち、フル回転しているようで韓国の教育熱心なところも伺えました。

さて関西空港から 4 名、岡山空港から 3 名、計 7 名が仁川空港で合流して中国の延吉に入りました。入国時ハプニングがありましたが、出迎えの先生方とお会いし無事に入国できホッとしました。

一年経った延吉の町は自治州 60 周年を迎えて道路も町並みも整備が進んでいました。教会の前の公園も花が植わり、モニュメントもいろいろ備わっていました。夜は素敵なネオンで夜遅くまで明るくなっていました。タクシーも新しくなって車の台数も益々増えて大混雑で運転も荒くスリル満点でした。高層マンションもラッシュで、急ピッチで進展しているのが分かりました。延吉教会も外装がすっかりきれいになり、中も改装されて良くなっていました。

一年ぶりの再会にハグして迎えられました。教会の女性方はとても明るく、元気で、信仰熱心で教会の行事にも協力しておられました。（私たちより遅れてニュースタートも始まり宿泊者 10 名プラス）

安息日学校で坪井、吉村姉が日本での女性会の働きを映像を通してお話し、希 314 番「深き恵みもて、を韓国語、日本語＋手話で特別讃美をしましたら、拍手と歓声があり、とても喜んでいただきました。私は去年、延吉教会で韓国語の讃美歌と聖書を求めてこの一年、毎週韓国語で讃美するようにしていたので（発音は保証できませんが）韓国語で讃美歌をたくさん歌えて個人的にすごく感激、感動しました。

今回の交流は前回のフレンドシップキルトに替わり、グループに分かれて自分たちの作品作りをすることになりました。製作時間が少ないので、事前に教会の皆様と毎週集まり、

準備しキットにして持って行きました。(キットとはすぐに縫える状態にセットしてあることです)始めに中山姉によってアロマの話があり、その後、マッサージ、編み物、パッチワークキルト2組と4つのグループに分かれて作業しました。通訳さんもおりましたが、通訳さんもそのうち縫い物に夢中になり、私たちは身振り手振りの会話が始まりました。糸、針(シル)、針 바늘(パナル)、はさみ 가위(カーウィ)等、お互いに言葉を教え合いながら(お互いにすぐに忘れるので何回も何回も繰り返し教え合っ)笑いの中、和やかに過ごしました。次の日までの宿題も(キルティング)出しました。

日曜日は昼の食事の準備のために朝から調理場に入りましたが、お手伝いの方々が来てくださり、また縫う方も朝から来てくださったので、編み縫い担当は朝から指導することになりました。宿題をして来た人、してこなかった人、また今日から新たに加わった人も交えて夕方まで没頭して作品作りをしました。(途中、お茶をし、証し会の時間も持ちました)聖書カバー作りはファスナー付けまでいったものが2名でしたが、ほか皆、バイヤス付けまで終わり、あとの課程は実物サンプルや説明図を見せながらの説明で分かってくださったようでした。完成された方、途中の方、それぞれ笑顔で終えることができました。

月曜日は片道500km離れた長春の町にあるラストエンペラー宮殿観光、火曜日は北朝鮮の国境近くにある衛生院等の見学をしました。

皆様に、祈り支えていただき、神様の守りのうちにすべての日程を終えることができました。感謝でした。続けて参加する意義も味わうことができました。いろいろな事を通して外国の信仰の同胞と交流する喜びを知り、国内でも私たちのできることでの交流や奉仕が広がっていけばと願っています。一人一人の小さな力が合わされば大きな事を成すことができるからです。どんなことでも神様のお役に立てます!!

最後に私ごとですが、チケット手配から荷物持ち、ボディーガード、写真係をして大活躍してくれた、准女性会メンバーの主人のおかげで、この集いに参加できたことに感謝したいと思います。



中国延吉教会を再訪問して、、、

神戸有野台教会長老 石塚 卓

日程 2012年9月13日(木)～19日(水)

昨年9月末から10月初めにかけて訪問した中国延吉教会に西日本女性会の活動の一つとして再訪しました。

今回は、アロママッサージ、小さなポーチ作り、毛糸編みのネックウォーマー作り、聖書カバー作り等の提供和食(ちらし寿司)と寒天ジェリーの提供を準備して出かけましたが、昨年以上の参加者があり、40名近くの子どもから年配者の多年齢の方々と温かい交流を持つことができたと思います。

しかし、この訪問には、最初から日中の尖閣諸島問題と、満州事変勃発の時期的な問題がありました。

14日(金)韓国インチョン空港から大韓航空で延吉空港に到着、入国審査を終えて出口に向かおうとした時、制服姿の管理官に呼び止められて中山良子さんが連れて行かれたので、私は直ぐにその後を追いかけて小部屋に入ると5、6人の管理官がいて中国語で何やら問いかけてきたので、英語で尋ね返すと話せる担当官がいないようで、これは困ったことになったなと思い、出口で友達が待っていると繰り返して話すと、女性管理官がどこにいるのかと言ってきたので、出口の方を指差してあそこにいると話し、出口まで二人で行くと、なかなか出てこない私たちを心配した李牧師が仕切りの外から中を覗き込んでいる姿があったので、あの人(李牧師)が友達と説明すると李牧師は直ぐに中に呼ばれて小部屋まで連れて行かれ、何やら話し合っている様子でしたが、しばらくするとここにこしながらやってきて無事に外に出ることが出来ましたが、入国早々の事件に緊張しました。

迎いの車の方に歩きながら話してくれた事情は、日中の尖閣問題があり、中央からの命令で入国してくる日本人の目的と滞在地をきちんと調べて報告するとのことで、李牧師が説明して書いて無事通過出来ました。この時期の中国訪問は、満州事変勃発の記念日(9月18日)が近いこともあって何が起こるか判らないなと思われました。

延吉教会に着いてみると、教会の外壁に新しく塗装が施されて落ち着いた雰囲気(霧囀気)の教会に、教会につながっているアパートも同じ色で塗装されていて綺麗になっていました。一年振りの教会の入口には、昨年作った信仰と希望と愛の言葉を縫い付けたハート型のパッチワークの額が飾られており、昨年の活動を懐かしく思い出すことができました。四階の宿泊階に上がり、どの部屋かなとドアの名前を見ながら探していくと、どういう訳か石塚卓と日下啓の名前が同室になっていてオヤまあこれはどうなっているのだろうと思わず笑ってしまいました。どうやら、男二人と間違えて相部屋にしたとのこと早速家内と部屋を交換してもらい、荷物を運び入れてベッドを見ると、昨年無かったきちんとしたベッドに替わっていて設備が改善されているなと思いました。日下さんと中山さんと吉村さんが同室、佐藤さんと坪井さんが同室、そして、石塚二人が同室で19日まで過ごすことになりました。廊下の奥にある

トイレは、昨年は、男女分けがなく空いている所を使用していましたが、今回は、ドアに、“男”“女”の貼り紙がしてあり、使い分けるようになっていましたが、それでも、日本から来た者にとっては、男女のトイレが薄い壁一つで並んでいるのは、まだまだ抵抗感がありました。

荷物を運び入れて落ち着いたので、二階の牧師室兼会議室で予定プログラムの確認と準備等の話し合いをしました。その折、昨年は居なかった女性伝道師コウさんを紹介してもらい、李牧師の仕事の範囲が広がっているのを実感しました。

話し合いの後、三階の食堂に行くと奥の壁に昨年延吉教会の婦人方と共同で作ったパッチワークの作品が額に入って掲示されているのを見て嬉しく懐かしくなりました。

一階に降りると昨年通訳をしてくださった香蘭さんが待っていて昨年も出かけた市場へ皆で揃って買い物と両替にタクシーに乗って行きました。ここではタクシーの利用料金は比較的安く、初乗り5元（65円）で市場へは大体5～6元で行ける距離（3km）なので、滞在中何度か利用しました。

ちらし寿司の材料になる卵や海苔を買ったり、陶器の器を探したりしているうちに、狭い道の店が並んでいるところで、大量の松茸を山積みにして売っているところがあり、それも無造作に山積みされているのを見て、日本だったら如何にも高級品らしく別に飾って販売しているのに、ここでは他の野菜と同じように木箱に入れて売っているのが大分違うなと思いました。松茸好きの人がいたらきっとたくさん買って食べただろうなと思いましたが、私たちは誰も買いませんでした。

市場近くの銀行に両替のため入ったところで年配の小柄な婦人が近寄ってきて、左手に元の札束を持ちながら両替が出来るよというのでレート聞いてみると悪くないので、皆それぞれに両替をし、これで買い物が出来るなと思いました。（一万円が八百五元）

教会に戻ると李牧師が待っていて最初の夕食に出かけました。菜っ葉に具を包んで食べる菜食を余るくらいたくさん食べたあと教会近くの公衆浴場に行きましたが、昨年来た時と同じ蛇口が壊れたままになっているので、おやまあ、、、と言葉が出ませんでした。町の様子は綺麗になっているのにこういうところは変わっていないのだなと思いました。銭湯代は、12元（156円）昨年は10元だったので値上がりしたようでした。夕方行ったせいかわかりませんが、湯船のお湯が濁っていて汚いのに驚きました。最初入った時には、中が薄暗いせいもあってか温泉の湯みたいだと思っていましたが、そうではなくて、単に汚れて濁っているだけだったのに気がついてちょっと気分が悪くなり、湯上りには、たっぴりとシャワーで体を洗ってから出ました。

金曜の夜にも集会有り、20人程の出席で話を頼まれていたので、李牧師に通訳してもらいながら、昨年子どもたちに話したツムギアリのパワーポイントを使ったスライドを見てもらいながら、今回は大人の人たちに神様の創造のわざの素晴らしさを話し、フィリピンで聞いた貧しい勤労学生の穴あきパンツの話を紹介し、援助の大切さを、神様を信じるものとして出来るだけの援助をしましょうとお奨めしました。出席していた信者の方々とは昨年お会いした方が何人もおられ、集会が始まる前に教会堂に入って来た私たちを見つけて傍までやってきて抱きしめて歓迎の気持ちを暖かく表して下さってとても嬉しい気持ちになりました。

た。

夜の集会が終わり、四階の部屋に戻って窓の外が明るいのでカーテンを開けると驚いたことに色とり取りの明かりでライトアップされたビル群が、まるでディズニーランドのエレクトリカルパレードのように綺麗に輝いて夜空を飾っていました。後で判ったことですが、延吉周辺の朝鮮族が多く住んでいる辺の自治州としての 60 周年をお祝いする飾り付だったということでした。

安息日は朝早くから祈りの会があり、安息日学校では、西日本女性会の 6 人による韓国語を交えた特別賛美歌とメンバー紹介、それに活動について会長の吉村さんから韓国語を交えた挨拶もあり、出席していた信者さんたちから拍手の歓迎があり、韓国語での賛美歌に驚き喜んでくれたと後で話してもらい、それはよかったと思いました。李牧師が佐藤さんのお話の通訳をしてくれましたが、昨年私が話した時は 12 年間日本で生活していたハイさんが通訳してくださっていたと一年経って今回になって知り、ああ、そうだったのかと思いました。日本語があんなに上手だったという理由が一年ぶりに分かり納得しました。

三階での昼食は、教会の青年たちが用意してくれたご飯と味噌汁とおかずで美味しく食べ、その後、用意してきた四つの作業を開始しました。最初は、中山さんのアロママッサージでモデルをかって出てくれた文さんを囲んでアロマオイルを塗って丁寧なマッサージ、その後は手指のマッサージ等 嬉しいことにその後もマッサージ希望者が続いて中山さんは熱心に教えていました。吉村さんは、ネックウォーマーを選んだ人たちに編み方を丁寧に手取り足取りで教えていました。佐藤さんは、財布作りを子どもや近隣の教会からの牧師婦人を含めた方たちに用意してきた材料と型紙を見てもらいながら、通訳の助けで丁寧に説明して作業を進めていました。真実さんは、聖書カバーの材料を配りパッチワークの縫い方から始めてお手本を見せながら韓国語も交えて教えていました。これらの製作は夕方暗くなるまで続き、部屋の明かりが点かなかったので窓際で出来るところまで作業をし、続きは日曜日の朝に持ち越しとなりました。日曜日は朝早く 8 時台から坪井さんたち皆でちらし寿司と寒天ジェリーを教会の信者さんたちと共同で準備し始め、昼には美味しそうな昼食が出来上がっていました。教会の信者さんたちと言葉が通じなくても身振り手振りで意思疎通を図りながら、調理している様子を見ていて、男性には出来ない女性たちの親密な交流の素晴らしさを感じました。言葉を必要としない交わりは、お互いの距離を限りなく近づけるよい方法だと思われされる時でした。何しろ、手振りとアイコンタクトで気持ちというか言いたいことが通じるのですから、...

用意された和食の昼食は参加した人たちになかなかの好評で、皆さん食べながら片言の韓国語と日本語、それに笑顔と頷きで楽しい交わりが出来ていました。中には、食べる席に作りかけの作品を持ち込んで手を動かしている婦人の姿も見ることも出来ました。その様子から、参加している方たちは、本当に楽しみながら作品作りに取り組んでいるのだなということがとてもよく分かり、記録写真を撮りながら私の顔も自然と綻んでくるのを感じました。

午後の時間も限られた時間内での完成を目指して、どのグループも皆集中して手を動かしていましたので、時間の過ぎるのがとても早く感じられたのではないかと思います。佐藤さんの小さなポーチの作品が出来上がった時には、周りから“おお”という声があがり、どの

人の顔も笑顔一杯で特に指導していた佐藤さんの嬉しそうな顔がとても印象的でした。私もその様子を写真に収めながら本当に良かったなと思いました。

親子で参加していた姉妹教会牧師夫人もポーチを仕上げると、部屋の片隅で写真を焼いたり、折り紙を折っていた私のところに子供と一緒にやってきて、折り紙コマの作り方を教えて欲しいというので、喜んで一緒に作りました。その様子を見ていた別の女性も私も作りたいと椅子を持って来たので、その方とも一緒に作り、どの人も上手に出来ていました。私なりのささやかな日中交流が出来たかなと思い、嬉しいひと時でした。

延吉教会の様子が分からなかったため、昨年の訪問時は写真を印刷する道具を持ってきませんでした。今回は、参加した皆さんに良い記念になればと思って用意してきていたので、写真を写しては差し上げていたところ、自分たちも写して欲しいという注文が出てきて沢山の写真を撮ることが出来ましたし、良い記録が録れたと思います。

この日は、予定時間よりもずっと遅く夕方暗くなるまでなんとか仕上げようと頑張った人たちが大勢いて終了前には、何人もの人が完成した作品を持ち帰ることが出来ていました。中には、二つの作品に取り組んだ手の器用な人もいて、用意してきた材料が足りないぐらいに好評で準備してきた甲斐が十分にあったなと思いました。言葉の壁を越え国籍の違いを越えてこんなに楽しく充実した交わりをすることが出来て、西日本女性会のメンバーの方たちも、参加して本当に良かったと喜んでくださったのではないかと思います。

それぞれ犠牲を払って準備してきたことを忘れるような満足というか喜びを感じる事ができているのを感じて、私もこの交流会は十分意味のある中国の人たちを身近に感じるこのできる体験になったと思いました。信仰を一つにする教会の信者同士だからこそその国境を越えた交わりは、本当に“友好”の言葉がぴったり当てはまるような交流だったと思いました。二日間の交流会が終わった後は、長春の満州国の”溥儀”が住んでいた宮殿の見学で日本軍が満州でした歴史上の暗部に接し、色々な事を考えさせられました。中朝国境の豆満江傍の治療院を訪れた際にお会いした調理員の女性からは、ホワイ夫人の自然療法によって命を救われた貴重な体験をお聞きして神様を賛美することが出来たことも嬉しかったことでした。

延吉教会を発つ19日の朝、一階に降りると教会の守衛をしているキムさんが編み上げたネックウォーマーを手を持って部屋から出て来て満面の笑顔と共に私たちに見せてくれました。とても綺麗に仕上がっていて指導した吉村さんも嬉しそうで記念の写真を撮りました。私たちが観光に出かけている二日間の間も時間を見つけて編み続けて完成させたようで作った本人は勿論のこと、私たち皆も我がことのように嬉しく自然に笑顔になっていました。僅か数日間の訪問交流でしたが、参加して本当に良かったと思いました。男性の私ではありますが、女性会のお役に立つのであれば、これからもこうした交流会に出来るだけ協力をしたいなと思いました。二回目の延吉教会訪問は、今回も私にとっては大変貴重な体験の旅になりました。参加する機会を頂けたことは本当に有り難く感謝なことでありました。